

平成生まれ
県内書家ら

「多くの批評受けたい」

28日から東京でグループ展



本県出身者を中心に平成生まれの9人が、それぞれの書世界を表現した「僕らの書展2014」を28日から東京・池袋の東京芸術劇場で開く。2010年、12年と県総合文化センターで展覧したが、「よりの多くの批評を受けた」と東京で初開催する。少字数12点、漢字多字数3点、漢字仮名交じり、墨象、臨書各1点など18点をメインに、書家を志す若者が真摯しんしに向き合った意欲的な造形書が並ぶ。31日まで。

出品者は社会人1人、大東文化大、東京学芸大、静岡大、筑波大で学ぶ学生8人（本県出身6人）。鹿沼市出身で県立高書道講師佐藤達也さとうたつやさんら前回参加の7人に、ことしの第66回毎日書道展入賞、U23毎日賞受賞者2人が加わった。

「2年前に覚悟を決め、『新しい書』の制作に没頭してきた（佐藤さん）今回。出品者全員が毎月、鹿沼市内に集まり合同錬成会、6月下旬にダイナミックな太字書で知られる柿下木冠かきしたぼん氏を招き出品作品検討会を開くなど準備を進めてきた。

佐藤さんの縦3・6、横5・4の大作「風」は文字と大きな空間（余白）のバランスの妙を表現。大東文化大内野直弥うちのなおやさん（宇都宮市）の少字数書「天星」など、各人が個性豊かな筆致で仕上げた。小

佐藤達也「風」（縦3・5
8センチ、横53・8センチ）

作品の東京学芸大伊藤聡美さとみさん（栃木市）作「想」は造形的に斬新な作。
（石川忠彦いしかわただひこ）